

# 現代ベトナム語の漢越語が持つ固有語的特徴 —中等教育数学用語の体系的分析を通して—

佐藤 章太

## Abstract

As Vietnamese belongs to the Hanzi cultural sphere historically, it has a great number of Sino-Vietnamese (referred to as “SV”) words. However, at present, Vietnamese writing system is based on alphabets, therefore it is difficult to distinguish SV words from Vietnamese native words correctly, and Vietnamese native linguistic features have a great effect on SV words. This paper aims to describe such features. The author focuses on Vietnamese mathematical terminology which hasn't been studied systematically and makes lexical investigations into 582 terms used in 14 secondary mathematics textbooks. The results are as follows: SV words have special nuances when they have a synonym in Vietnamese native words, some monosyllable SV words have new meanings by the abbreviation of dissyllable SV words. Moreover, the author focuses on the lack of uniformity of head directionality in dissyllable SV nouns and investigates the relationship between head directionality and syntactic independence of the two components of those words. The results indicate that the dissyllable SV nouns which have two monosyllable SV words are more likely to be head-initial than those which have at least one morpheme or meaningless syllable.

**キーワード**：ベトナム語，漢語由来語彙，漢越語，語種意識，漢字文化圏の周辺

## 1. ベトナム語について

ベトナム語とは、インドシナ半島東部に位置するベトナム社会主義共和国（国民約9269万5100人<sup>1)</sup>）の国家語であり、国民の約85.73%<sup>2)</sup>を占める最大民族キン（Kinh）族の母語である。また、隣接するカンボジアや旧宗主国のフランス、戦争難民が亡命したアメリカ、中国、カナダ、オーストラリアなどにも話者がいる。

言語の系統は、オーストロアジア語族モン・クメール語派ヴェト・ムオン語群である（Trần Trí Dõi, 2007: 49-50）。言語の類型としては、孤立語的特徴を持ち、動詞文はSVOの順に並び、修飾構造は後置修飾型であり、典型的な主要部前置型言語といえる。また、音節<sup>3)</sup>については、多くが単独で具体的な意味を持ち、単音節性の強い言語である。

公用語と文字の歴史について。ベトナムは漢代より約1000年に渡り中国に支配され、

その後の独立王朝時代も東アジア漢字文化圏に属し、漢字漢文が公式に使われ続けた。また、独立王朝時代にはベトナム語を表すために漢字の構造を応用してチュノム（字喃）が創作されたが、それは漢字漢文に対して従属的な地位にあった<sup>4</sup>。しかし、近代にベトナムがフランス領インドシナに組み込まれると、フランス植民地政府は、公用語のフランス語と同じアルファベット体系のチュクオックグー（Chữ Quốc ngữ）によるベトナム語表記の普及に努めた。当初は在地知識人の反発もあったが、徐々にその利便性や表現力が評価され、ベトナム人側にも主体的に受け入れられるようになった（岩月、2005）。1945年のベトナム民主共和国独立以降は、チュクオックグー表記によるベトナム語が公用語となった<sup>5</sup>。なお現在、初中等教育では漢字の字形は教えられておらず、伝統的漢字漢文教育が残存していたフランス植民地時代に青年期を過ごした現在の最高齢層や、漢喃学（漢字、チュノムの専門研究分野）の研究者や学生、僧侶、日本語や中国語の学習者などを除いて、大多数の現代ベトナム人は漢字字形知識を持っていないといえる。

## 2. ベトナム語の語種について

### 2.1 語源学的な観点から

ベトナム語外来語の体系的研究の Nguyễn Văn Khang (2007: 54-56) によると、借用の観点から分類すると、理論上、一つの言語の語彙は固有語彙と借用語彙に二分でき、ベトナム語の場合は、純ベトナム語（Tự thuần Việt）、借用語または外来語（Tự vay mượn hay từ ngoại lai）に分けられ、後者にはベトナム語語彙の約 65% を占めるといわれる漢語由来のもの、約 3000 近くの数を持つフランス語由来のもの、そしてその次に多い英語由来のものなどがあるという。一方で、上にあげた各種の借用語や外来語を除いた基礎語彙の中にも、歴史を遡れば、非オーストロアジア系語彙が含まれていることが、近年の研究で明らかになっている。Trần Trí Dõi (2011) はベトナム語の基礎語彙の中に、歴史的にオーストロアジア系住民と隣接および共生の関係にあったタイ・ガダイ系やオーストロネシア系からの借用語彙が混在していると指摘しており、それらは古ベトナム語<sup>6</sup>の段階において借用されたものだとしている。

次に、漢語由来語彙について。Nguyễn Văn Khang (2007: 61-97) によると、漢語由来語彙は借用の時期や方式によって、以下の下位分類<sup>7</sup>に分けられるという。

漢越語（Tự Hán Việt）：体系的なベトナム漢字音<sup>8</sup>によって読まれるもの。

古漢越語（Tự Hán Việt cổ）：漢越語成立以前に、非体系的に受容されたもの。

越化漢越語（Tự Hán Việt Việt hoá）：漢越語の一部が、音声変化してできたもの。

漢語方言音模倣語（Tự Hán Việt phỏng âm phương ngữ tiếng Hán）：中国南部からベトナムへ移住した華人がもたらしたもの。

漢字音については、漢越語に用いられるベトナム漢字音のみが体系性を持つ一方、その他の種類のものは、全ての漢字がそれに対応する音を持つわけではなく、非体系的な漢字音である。

## 2.2 共時的な観点から

上述のように、ベトナム語には様々な言語に起源を持つ語彙が混在しており、特に漢字由来語彙は複数の下位分類に分かれる。しかし、現代ベトナム語研究では、以下の研究例が示すように、語種はより簡素化した構図で捉えられている。

ベトナム語外来語の体系的研究の Nguyễn Văn Khang (2007) は章立てを、1. 語彙借用理論の諸問題、2. ベトナム語における漢語借用語の概括、3. 漢越語とその変種、4. 漢越語の特徴、5. 他の漢語借用語：古漢越語、越化漢越語、漢語方言音模倣語、6. ベトナム語におけるフランス語借用語、7. ベトナム語において使われる英語語彙の特徴、8. 現段階における外来語とベトナム語の保持と発展、としている。つまり、漢語由来、フランス語由来、英語由来の語彙を外来語として捉えており、さらに漢語由来語彙の中では漢越語が際立っていることが分かる。

ベトナム語漢語由来語彙の先駆的研究の王力 (1949: 58-59) は、漢語由来語彙の下位分類のうち古漢越語と越化漢越語は日常的なベトナム語に入り込み、根を下ろしていると説明しており、それらが共時的に純ベトナム語と認識されていることを指摘した。また、漢語方言音模倣語については、Vũ Đức Nghiệu (2011: 173-176) が共時的にベトナム南部方言の語彙と見なされていると述べており、これも純ベトナム語として認識されていると考えられる。

一方、ベトナム語における純ベトナム語と外来語の概念について論じた Trần Trí Dõi (2011) は、第 2.1 節で述べた基礎語彙に混在しているタイ・ガダイ系語彙やオーストロネシア系語彙などの非オーストロアジア系語彙が、通常、純ベトナム語と見なされていると述べている。

このように、ベトナム語研究では、現代話者の共時的な語種感覚に基づき、基礎語彙に混在している非オーストロアジア系言語に由来する語彙や、漢越語以外の漢語由来語彙も、純ベトナム語に含めて扱う傾向がある。

## 2.3 本論の語種区分

図 1 は、第 2.1 節と第 2.2 節で述べた語源学的な語種 (細字と点線による区分) と共時的な語種 (太字と太線による区分) のずれを示したものである。本論では、ベトナム語研究で一般的に用いられている、純ベトナム語、漢越語、西洋語由来語彙の 3 つからなる共時的な語種区分を採用する (図 1 の太字と太線による区分)。その際、基礎語彙に

混在する非オーストロアジア系語彙や、漢越語以外の漢語由来語彙も純ベトナム語として括り、語源学的な起源については言及しない。そして、語種の判定には大型現代ベトナム語辞典 Vietlex (2015)<sup>10</sup>を用い、漢越語<sup>11</sup>や西洋語由来語彙との註記がない語彙を純ベトナム語と判断する。なお本論では、純ベトナム語はその意味を( )に、漢越語は漢字表記を【 】に、西洋語由来語彙は原語名と原語スペルを《 》に、日本語での意味を『 』にそれぞれ入れて表記する<sup>12</sup>。また、後置修飾構造の名詞句に対しては、主要部と従属部の間に「・」を挿入する。

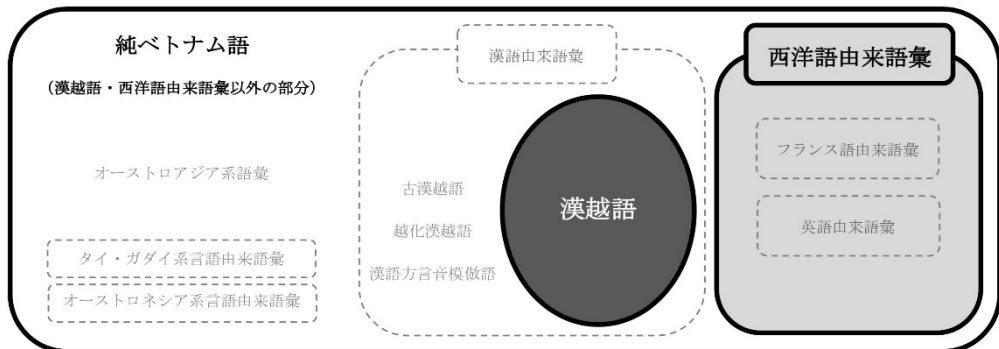


図1 ベトナム語語彙における語源学的語種（細字点線）と共時的語種（太字太線）

### 3. 本論の研究について

#### 3.1 本論の関心

本論は第 2.3 節で述べた語種のうち、漢越語を研究対象とする。ベトナム語の漢越語は基本語彙にも存在するが、主に概念語や専門用語などの文化的な語彙に多く見られる。しかし、第 1 節で述べた通り、現代ベトナム語はアルファベット体系のチュクオックグーによって書かれ、漢越語が漢字で書かれることはなく、大多数の話者が漢字字形を知らずに漢越語を用いている。ここで疑問となるのが、本来的には字形、音声、意味がセットとなって認識される表語文字の漢字によってできる漢語語彙が、表記の表音文字化によってその字形を失い、脆弱な存在となったとき、同じ言語世界で共存する民族固有の語彙（第 2.3 節で述べた純ベトナム語）や文法の影響をどのように受け、どのような固有語的特徴を持つようになるのか、ということである。そこで本論では、中等教育で用いられる数学用語を分析材料に、意味面や統語面において、漢越語にどのようなベトナム語固有の特徴が見られるのかを示すことを目的とする。

#### 3.2 本論の分析対象

筆者は本論に先立って、ベトナムの中等教育で実際に用いられている数学教科書 14 冊<sup>13</sup>

の中から数学用語 582 個を収集<sup>14</sup>し、分析した。本論ではこの分析結果を用いて論じる。

筆者が分析対象として中等教育数学用語を選んだ理由は 3 つある。1 つ目に、ベトナム語の数学用語は、管見の限りいまだ体系的分析がなされていないからである。2 つ目に、数学を含む自然科学分野のベトナム語による用語は、その基礎がフランス植民地期末期の 1940 年代前半の数年間に作り出されている<sup>15</sup>。特に、数学は他分野と比べて、漢文文献からの語彙の継承度が相対的に低いと考えられ、歴史的な中国語の影響が少ない造語運動の中で生まれた漢越語用語に、ベトナム語的特徴の出現を期待できると考えるからである。3 つ目に、専門家同士の狭い世界でしか用いられない学術用語とは異なり、中等教育における用語は、国語能力が発達途上にある学習者でも接近しやすいものが採用されている可能性が高く、そこにベトナム語的特徴の出現を期待できるからである。

#### 4. ベトナム語中等教育数学用語の特徴

音節数について。収集した 582 個の用語のうち、最も多かったのは 2 音節の 212 個 (36.4%)、そして 3 音節の 163 個 (28.0%)、4 音節の 132 個 (22.7%)、1 音節の 41 個 (7.0%) と続き、5～10 音節のものも 34 個 (5.8%) あった。平均音節数は 2.9 であった。

語種については、ベトナム語専門用語研究の Nguyễn Đức Tôn (Chủ biên) (2016)<sup>16</sup>で挙げられている結果を参考にしながら、数学用語の特徴を述べる。Nguyễn Đức Tôn (Chủ biên) (2016: 354-355) は、ベトナム語専門用語は漢越語が主で、その次に純ベトナム語が続き、西洋語由来語彙が最も少ないとしている。表 1 は筆者が収集した数学用語の語種と音節数の分布を示したものであり、その傾向が当てはまることが分かる。特に漢越語については、用語全体が漢越語のもの (表 1①) は 2 音節語の 52.8%、全体の 41.9% を占め、漢越語を含む用語 (表 1⑤) は音節数が増えるとともに割合が増加し、全体の 84.2% を占めており、数学用語でも漢越語が多用される傾向にあることが分かる。そして、語種の異なる語同士の結合について、Nguyễn Đức Tôn (Chủ biên) (2016: 354) は「起源について同類の用語同士を結合させなければならないというベトナム語のかつての語構成規則には従わなくなっている」(354 ページより引用、筆者和訳) と説明しており、表 1 の②③④⑧の存在から、これは数学用語にも当てはまることが分かる。その中でも、(1) のような漢越語と純ベトナム語の結合 (表 1②) が全体の 37.3% と最多で、(2) のような漢越語と純ベトナム語と西洋語由来語彙が全て含まれているもの (表 1④) も僅かながら存在した。このように、現代ベトナム語の語構成や造語においては、語種の枠にとらわれず、語種の異なる語同士が比較的自由に結合できるという特徴を持っていることが分かる。

(1) điều kiện đủ 【条件】・(十分な) 『十分条件』

(2) đường hình sin (道)・【形】・《仏語 sinus》『サインカーブ』

表1 ベトナム語中等教育数学用語の語種と音節数の分布

(漢越語を「漢」、純ベトナム語を「純」、西洋語由来語彙を「西」と略記、パーセンテージは列ごとに算出し、小数点第二位を四捨五入した。)

		音節数					合計
		1	2	3	4	5~	
語種	①漢のみ	22 53.7%	112 52.8%	57 35.0%	47 35.6%	6 17.6%	244 41.9%
	②漢+純	/	53 25.0%	81 49.7%	65 49.2%	18 52.9%	217 37.3%
	③漢+西	/	2 0.9%	5 3.1%	13 9.8%	7 20.6%	27 4.6%
	④漢+純+西	/	/	1 0.6%	0 0.0%	1 2.9%	2 0.3%
	⑤漢を含むもの (①~④合計)	22 53.7%	167 78.8%	144 88.3%	125 94.7%	32 94.1%	490 84.2%
	⑥純のみ	16 39.0%	39 18.4%	12 7.4%	5 3.8%	2 5.9%	74 12.7%
	⑦西のみ	3 7.3%	6 2.8%	4 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	13 2.2%
	⑧純+西	/	0 0.0%	3 1.8%	2 1.5%	0 0.0%	5 0.9%
合計 (⑤~⑧合計)		41 100.0%	212 100.0%	163 100.0%	132 100.0%	34 100.0%	582 100.0%

## 5. 意味面の特徴

### 5.1 ニュアンスの発生

Cao Xuân Hạo (2017) によると、漢越語はそれと同じ意味を持つ純ベトナム語と比べて、フォーマル (Trang trọng)、詩的 (Thi vị)、古風 (Cổ kính)、学問的 (Bác học)、漠然 (Mờ ảo) といったニュアンスを持つという。

数学用語では、(3a) (4a) の純ベトナム語と意味は同じだが、純ベトナム語よりフォーマル、学問的などのニュアンスを持つと考えられる漢越語の (3b) (4b) が、(3c) ~ (3e)、(4c) ~ (4g) の用語において見られた。

(3) a. nhiều ~ (多い)

- b. đa ~ 【多】
  - c. đa diện 【多面】 『多面体』
  - d. đa giác 【多角】 『多角形』
  - e. đa thức 【多式】 『多項式』
- (4)
- a. cùng ~ (同じ)
  - b. đồng ~ 【同】
  - c. đồng dạng 【同様】 『相似』
  - d. đồng khả năng 【同】 【可能】 『同様に確からしい』
  - e. đồng phẳng 【同】 (平らな) 『同一平面上の』
  - f. đồng tâm 【同心】 『同一中心を共有するような』
  - g. góc đồng vị (角) 【同位】 『同位角』

(3b) について、村上・今井 (2013) は、英語の **multi-** という接頭辞の翻訳として使われ、同じ意味の純ベトナム語 (3a) に比べて用法は限られているものの、他の漢越語や純ベトナム語と結合<sup>17</sup>し、(3a) に比べて「術語を作る簡潔さ」を持っていると指摘している<sup>18</sup>。(4b) についても同様の現象として捉えられると考える。この「術語を作る簡潔さ」とは、Cao Xuân Hạo (2017) が指摘した学問的なニュアンスと通じる部分が大いと考えられ、この現象は、同じ意味の純ベトナム語を持つ漢越語が、語種の壁を取り除き、その純ベトナム語との間にニュアンスの違いを作り出すことで、自らの位置や存在価値を生み出し、ベトナム語語彙体系に溶け込んでいるとも解釈できる。

## 5.2 新たな意味内容の付与

ベトナム語では、複数音節 (通常は2音節) の漢越語が省略されて単音節 (漢字一つ分に相当) 化することにより、その単音節漢越語や漢字自体が本来持っていなかった意味が新たに付与されることがある。ベトナム語辞典 (Vietlex, 2015: 459, 1741-1742) には、以下の単音節漢越語 (5a) (6a) が、それぞれ2音節漢越語 (5b) (6b) を省略したものとして掲載されている。

- (5) a. đảm 【擔】
- b. đảm đang 【擔當】 『家事上手の』
- (6) a. viễn 【遠】
- b. viễn thị 【遠視】 『遠視の』

(5a) は (5b) 以外にも **đảm đương** 【擔當】 『担当する』 の省略としての用法もあるが、「稀」と註記されている。一方、(6a) は (6b) 以外の意味が掲載されていない。また、

(5b) (6b) の意味は、(5a) (6a) の漢字の原義とも異なる。このように、2 音節漢越語が単音節化によって、単音節漢越語やその漢字の原義とは異なる新たな意味を付与されることがある。

この現象は筆者が収集した数学用語でも見られた。以下の単音節漢越語 (7a) (8a) (9a) (10a) (11a) は、数学教科書においてそれぞれ 2 音節漢越語 (7b) (8b) (9b) (10b) (11b) の省略として掲載されている。

- (7) a. hằng 【恒】  
b. hằng số 【恒数】 『定数』
- (8) a. mẫu 【母】  
b. mẫu số 【母数】 『分母』
- (9) a. tập 【集】  
b. tập hợp 【集合】 『集合』
- (10) a. tử 【子】  
b. tử số 【子数】 『分子』
- (11) a. ước 【約】  
b. ước số 【約数】 『約数』

ベトナム語辞典 (Vietlex, 2015: 674, 1410, 1707) においては、(7a) が「いつも」「毎～」という意味の副詞として、(9a) が「紙を綴じたもの」「一作品の一部分」「複数の作品を集めた本」という意味の名詞として、(11a) が「望む」「(古い意味として) 約束する」という意味の動詞としてそれぞれ単独用法を持つが、(8a) (10a) は単独で掲載されていない。また、これらの数学的意味は漢字の原義とも異なる。つまり、数学領域においても、2 音節漢越語の単音節化により、単音節漢越語やその漢字の原義とは異なる新たな意味を付与されることがあるといえる。

この現象は、ベトナム語の単音節性による影響とも考えられる。また、(6a) (8a) (10a) のように意味的に空白だった音節を活用する形で起こることがあり、この現象は具体的意味を持たない音節に対する意味の分配としても捉えられる<sup>19</sup>。

## 6. 統語面の特徴

### 6.1 名詞修飾構造を持つ漢越語の主要部位置

現代ベトナム語と現代中国語 (普通話) の語順を比較すると、名詞修飾構造については、現代ベトナム語では主要部 (修飾される名詞) が前に、従属部 (名詞を修飾する名詞、形容詞、動詞) が後に置かれる主要部前置型であるのに対し、現代中国語 (普通話) では両者が逆転した主要部後置型であり、両言語の語順は決定的に異なる。



漢越語が持つ統語面の代表的な固有語的特徴として、名詞修飾構造の漢越語の一部が、ベトナム語の語順に従い、主要部前置型で構成される現象が挙げられる。ベトナム語の漢語由来語彙研究の Lê Đình Khản (2002: 180-181) は (12a) (13a) のような主要部後置型から、(12b) (13b) のような主要部前置型が生まれた<sup>20</sup>例を示している。なお、主要部を太字で示す。

- (12) 『村長』  
 a. thôn **trưởng** 【村長】  
 b. **trưởng** thôn 【長】・【村】
- (13) 『高い点』  
 a. cao **điểm** 【高點】  
 b. **điểm** cao 【點】・【高】

筆者が収集した数学用語でも、名詞修飾構造の漢越語には主要部前置型と後置型の両者が見られた。その中から、主要部が số 【數】『数』という漢越語からなる主要部前置型の2音節漢越語 (14a) ~ (14c) と主要部後置型の2音節漢越語 (15a) ~ (15i) を挙げる。なお、主要部を太字で示す。

- (14) a. số gia 【數】・【加】『増加量』  
 b. số phức 【數】・【複】『複素数』  
 c. số thực 【數】・【實】『実数』
- (15) a. ẩn số 【隱數】『未知数』  
 b. biến số 【變數】『変数』  
 c. đối số 【對數】『独立変数』  
 d. hàm số 【函數】『関数』  
 e. hằng số 【恒數】『定数』  
 f. hệ số 【係數】『係数』  
 g. hợp số 【合數】『合成数』  
 h. tham số 【參數】『媒介変数、パラメータ』  
 i. thừa số 【乘數】『因数』

このように、主要部後置型が多数を占めるものの、数の種類を表す用語群（主要部が số 【數】『数』の用語群）に主要部前置型と後置型が混在し、形式的な体系性が保たれていないことが分かる。また、主要部位置は意味内容や音声音韻には関係なく、個別具体的に決まっているように見える。

筆者は名詞修飾構造の2音節漢越語について、それを構成する2つの音節がベトナム語の中で単独で使用可能な語かどうか、主要部位置に関係していると考え、以下の仮説を立てた。

[仮説] 名詞修飾構造の2音節漢越語について、それを構成する2つの音節がともに単独で使用可能な漢越語であるもの(以下、X)は主要部前置型を取り、単独で使用不可能なものが含まれているもの(以下、Y)は主要部後置型を取る。

すなわち、2音節漢越語を構成する2つの音節が、ともに単独で使用可能なベトナム語の語であるときには、それらが純ベトナム語のように認識され、ベトナム語の語順の主要部前置型で結びついているのではないか、ということである。

## 6.2 仮説の統計的検証

筆者は収集した数学用語を用いて、この仮説を統計的に検証した。漢越音節が単独で使用可能なかどうかについては、日常的なベトナム語においても用いられているかを根拠に判断するために、漢字表記のある大型ベトナム語辞典(Vietlex, 2015)だけでなく、中型の常用ベトナム語辞典(Vietlex, 2014)も用いた。そして、用語の形態素としての意味と同じ内容で両辞典に掲載があり、「古い語」や「稀」という註のないものを単独使用可能とし、それ以外を単独使用不可能と判断した<sup>21</sup>。収集データにおける名詞修飾構造の2音節漢越語のうち、主要部前置型は15個<sup>22</sup>、主要部後置型は68個<sup>23</sup>見つかった。それらを構成する主要部と従属部の音節を単独使用可能性によって分類すると、それぞれ表2、表3のようになり、筆者の仮説におけるXを灰色で、Yを太枠で示した。また、表2、表3におけるX(灰色部)とY(太枠内)の数の分布を示すと、表4のようになる。

表2 主要部前置型2音節漢越語の主要部と従属部の単独使用可能性(灰色部と太枠内はそれぞれ筆者の仮説のXとYを示す)

主要部 従属部	主要部		合計
	単独使用可能	単独使用不可能	
単独使用可能	11	1	12
単独使用不可能	2	1	3
合計	13	2	15

表3 主要部後置型2音節漢越語の主要部と従属部の単独使用可能性（灰色部と太枠内はそれぞれ筆者の仮説のXとYを示す）

主要部 従属部	単独使用可能	単独使用不可能	合計
単独使用可能	8	9	17
単独使用不可能	27	24	51
合計	35	33	68

表4 名詞修飾構造の2音節漢越語を構成する音節の単独使用可能性の組合せの分布

	X	Y	合計
主要部前置型	11	4	15
主要部後置型	8	60	68
合計	19	64	83

表4の数値に対して、カイ2乗検定を行ったところ、大きな効果量<sup>24</sup>とともに統計的に極めて有意な差があることが分かった ( $\chi^2=23.019$ ;  $df=1$ ;  $p=.004$ ;  $\phi=0.527$ )。また、残差分析を行ったところ、「2つの音節がともに単独で使用可能な漢越語であるもの(X)」は主要部前置型が多く、主要部後置型が少ない一方、「2つの音節に単独で使用不可能なものが含まれているもの(Y)」は主要部前置型が少なく、主要部後置型が多いという結果が、統計的に有意に得られた ( $p < .05$ )。この結果から、本論では以下のように結論する。

[結論] 名詞修飾構造の2音節漢越語において、主要部、従属部がともに単独で使用可能なものは、そうでないものよりも、ベトナム語の語順に従って主要部前置型をとることが多い。

この現象は、統語面での漢越語の固有語的特徴を示すだけでなく、ベトナム語の中で単独で使える単音節漢越語が、現代話者の意識の中で純ベトナム語として捉えられていることをも示していると筆者は考える。

## 7. 終わりに

本論では、現代ベトナム語において、純ベトナム語や西洋語由来語彙と並ぶ一つの語種として認識され、概念語や専門用語などの文化的な語彙に多く用いられる漢越語に着目し、それらがアルファベットで表記され、漢字では表記されないことで、他の語種(特

に純ベトナム語)と表面上の区別がつかない中で、意味面や統語面で様々なベトナム語固有の特徴の影響を受けていることを指摘した。そして、先行研究のない数学用語に着目し、中等教育数学教科書から収集した582個の数学用語の分析を通して、ベトナム語の固有語的特徴が、専門用語レベルの漢越語においても観察できることを報告した。

意味面では、同義の純ベトナム語とは異なるニュアンスを生み出すことで、現代ベトナム語における自らの位置を見つけ、ベトナム語に溶け込み、淘汰を免れている。また、単音節の漢越語は、それを含む2音節漢越語の省略形として、その語や漢字が本来持っていた意味とは異なる新たな意味を付与されることがあり、時にそれはベトナム語の単音節性の影響による、具体的意味を持たない音節への意味の分配であることも指摘した。

統語面では、名詞修飾構造の2音節漢越語の中には、主要部が同じ漢越語であるにも関わらず、主要部前置型と後置型が混在している現状を指摘した。また、主要部位置を決める要因として、2音節漢越語を構成する2つの音節が現代ベトナム語の中で単独で利用できる漢越語となっているかどうかに着目し、収集データと統計的検定を用いて、その2つの音節がともに単独使用可能な漢越語であるものは、そうでないものよりも主要部前置型を取ることが多いことを、統計的に有意な結果とともに実証した。

本論では、現代ベトナム語の漢越語の特徴を、数学分野という限られた領域の語彙データによって検証した。そのため、本論で得られた結果がどの程度、他領域の用語やベトナム語語彙全体に適用できるかは未知数である。そして、意味面については2音節以上の漢越語の意味内容の変化に言及できなかった。また、統語面では単独使用可能性のみ着目し、単独使用不可能な音節に意味が残されているかについて言及できなかった。

今後は扱う語彙の領域や数量、扱う現象の種類、分析手法をより拡大することで、現代ベトナム語における漢越語と固有語(純ベトナム語)の境目がどのような様相を呈し、現代話者の意識の中で両者がどのように認識され、両者に対する語種意識がどのように区別および融合し、どのように再編成されているのかを追い、現代ベトナム語における漢越語の真の肖像を描いていきたい。

## 註

- <sup>1</sup> Tổng cục Thống kê (2017: 77-78) 参照。データは2016年時点。
- <sup>2</sup> Ban Chỉ đạo Tổng điều tra dân số và nhà ở Trung ương (2010: 134-135) より筆者が算出。データは2009年時点。
- <sup>3</sup> 現代ベトナム語の表記に用いられるアルファベット体系のチュークオックグーでは、複数音節の外国の固有名詞や西洋語由来語彙を除いて、原則的に音節ごとに分かち書きされる。
- <sup>4</sup> ただし、15世紀後半の胡季犛 (Hồ Quý Ly) や18世紀末の阮恵 (Nguyễn Huệ) の治世など、チュノムを公用文字として採用しようと試みた時代もあった (富田, 1979)。
- <sup>5</sup> このような判断の根拠として、Nguyễn Văn Khang (2013) は1945年にホー・チ・ミン (Hồ Chí Minh) がベトナム語で独立宣言をしたことを第一に挙げている。しかし、Nguyễn Văn Khang (2014) によると、法律面では、憲法を始めベトナム共産党や国家の正式文書において、ベトナム語がベトナムの正式言語であることは長らく明文化されて来ず、2013年改正憲法第5条第3項において初めて「国家語はベトナム語である」 (Ngôn ngữ quốc gia là tiếng Việt.) と明記されたという。
- <sup>6</sup> Trần Trí Dõi (2007: 190-191) は、その具体的な時期をおよそ13世紀末から15世紀末としている。
- <sup>7</sup> 漢語由来語彙の下位分類の名称は研究者によって微妙に異なっているが、ここでは Nguyễn Văn Khang (2007) の用語を紹介する。
- <sup>8</sup> Nguyễn Tài Cẩn (1979: 11-16) によると、これは8~9世紀に当時の交州地方 (現在のベトナム北部から中国広東省にかけての地域) で教えられていた唐代の漢字音体系に起源を持ち、その後ベトナム語の歴史的な音声変化の影響で形成されたベトナム独自の漢字音であるという。なお、同研究は漢越読み (Cách đọc Hán Việt) という呼称を用いている。
- <sup>9</sup> 王力 (1949: 58-59) は漢語越化という呼称を用いているが、これは本論の越化漢越語に相当する。
- <sup>10</sup> この辞典は、漢越語に対して漢字表記を、フランス語や英語などの西洋語由来語彙に対して原語名と原語表記を掲載している。本論では、これらの註記の有無を根拠に、語種を判断する。
- <sup>11</sup> 漢越語の判定には Vietlex (2015) に加え、漢越語に特化した辞典の Lai Cao Nguyên (2006) も用いる。なお、両者の漢字表記が異なる場合には、後者の表記を採用する。
- <sup>12</sup> 漢越語の漢字表記と西洋語由来語彙の原語表記は Vietlex (2015) に基づくが、漢字については、印刷の都合上、Vietlex (2015) における表記との間に字形の違いが生じる場合がある。以下、本論における語種と意味の表記例を挙げる。「隠数」という漢字表記で、「未知数」という意味で用いられている漢越語の ẩn số であれば、ẩn số 【隠数】 『未知数』と表記する。本来「段」という意味を持ち、「次数」という専門の意味で用いられている純ベトナム語の bậc であれば、bậc (段) 『次数』と表記する。フランス語の logarithme に由来し「対数」という意味で用いられている西洋語由来語彙の lôgarit であれば、lôgarit 《仏語 logarithme》 『対数』と表記する。「整

った」という意味の純ベトナム語の *đều* が、「多角」という漢字表記の漢越語の *đa giác* を修飾してできた「正多角形」という意味の名詞句であれば、*đa giác đều* 【多角】・（整った）『正多角形』と表記する。

- 13 Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016a; 2016b; 2016c; 2016d; 2016e; 2016f; 2016g; 2016h; 2016i; 2016j; 2016k; 2016l; 2017a; 2017b) である。
- 14 教科書の見出しおよび地の文における太字と斜体字の表記の部分から、数学用語と思われるものを筆者が収集した。
- 15 1941年にフランスの許可の下に刊行が始まった「科学新聞」(Báo Khoa học)における外来専門用語のベトナム語化に関する議論や、1942年に出版された数学、物理、化学、力学、天文学の仏越対照用語集の「科学名詞」(Danh từ Khoa học) (Hoàng Xuân Hãn, 1942)を指す。
- 16 この研究では物理学、言語学、建築技術、商業の専門用語を体系的に分析している。
- 17 (3a) (4a) が名詞と結合する際、名詞は後置されるが、それは形容詞が名詞を修飾してできた名詞句ではなく、形容詞と名詞が結合してできた形容詞性を持つ複合語と解釈する(富田, 2000:77-79)。
- 18 村上・今井(2013)では、他の漢越語だけでなく、語種の壁を超えて純ベトナム語とも結びつくことから、漢越語 *đa* 【多】がベトナム語の中で文法的特徴を持つようになっていると指摘している。
- 19 Lê Khả Kế (1967) は、ベトナム語による専門用語作成の方法として、単独では使えない単音節の漢越語を専門用語化することを提唱し、具体例として物理用語の *lực* 【力】『力<sup>ちから</sup>(仏語 *force* に相当)』、*phổ* 【譜】『スペクトル(仏語 *spectre* に相当)』、*trường* 【場】『場、界(仏語の *champ* に相当)』、数学用語の *hàm* 【函】『関数(仏語 *fonction* に相当)』、*căn* 【根】『累乗根(仏語 *racine* に相当)』などを挙げている。このように、2音節漢越語の単音節化以外にも、専門的意味を表すために単独で語として使われなかった(意味的に空白だった)漢越音節を活用する動きがあったことが指摘できる。
- 20 (12) について、1970年代後半のベトナム語辞典(Văn Tân (chủ biên), 1977: 742)には(12a)のみが掲載されているが、現代ベトナム語辞典(Vietlex, 2015: 1493, 1660)には(12a) (12b)の両者が掲載され、(12a)は「古い語」と註記されており、主要部後置型から前置型に置き換わったことが分かる。一方(13)については、現代ベトナム語辞典(Vietlex, 2015: 186, 512)には両者が通常項目として掲載され、(13b)は「(位置的に)高い所」という意味で使われ、(13a)にはその意味に加え、(13b)にはない「ピーク時」という意味が与えられており、両者が異義語として併存していることが分かる。
- 21 例えば、単音節漢越語 *nghiệm* 【験】『解』について。両辞典とも *nghiệm* 【験】の項目があり、大型ベトナム語辞典(Vietlex, 2015: 1069)には『解』の意味も掲載されているが、中型の常用ベトナム語辞典(Vietlex, 2014: 542)にはその意味が掲載されていない。よって、日常的なベトナム語では用いられないと考えられ、本論では単独使用不可能と判断した。

- 22 単独使用可能な音節は実線で、単独使用不可能な音節は点線で示し、以下列挙する。 đặt ẩn phụ (置く) 【隠】・【附】『文字を置き換える』、phần ảo 【分】・【幻】『(複素数の) 虚部』、phần biến 【分】・【變】『変数部分』、phần thực 【分】・【實】『(複素数の) 実部』、số gia 【數】・【加】『増加量』、số phức 【數】・【複】『複素数』、số thực 【數】・【實】『実数』、tập đích 【集】・【的】『終域、値域』、tập nghiệm 【集】・【驗】『解集合』、trục ảo 【軸】・【幻】『(複素数平面の) 虚軸、(双曲線の) 共役軸』、trục cao 【軸】・【高】『z 軸』、trục hoành 【軸】・【横】『x 軸』、trục số 【軸】・【數】『数直線』、trục thực 【軸】・【實】『(複素数平面の) 実軸、(双曲線の) x 軸』、trục tung 【軸】・【縦】『y 軸』。
- 23 単独使用可能な音節は実線で、単独使用不可能な音節は点線で示し、以下列挙する。 ẩn số 【隠數】『未知数』、bát giác 【八角】『八角形』、biến số 【變數】『変数』、biệt thức 【\*別式】『判別式』、biểu thức 【表式】『式、数式』、cao độ 【高度】『z 座標』、cắt tuyến 【割線】『割線』、căn thức 【根式】『累乗根の文字式』、cấp số cộng 【級數】・【共】『等差数列』、chu kì 【周期】『周期、循環節』、công bội 【公倍】『公比』、công sai 【公差】『公差』、cơ số 【基數】『(累乗や対数の) 底』、đơn thức 【單式】『単項式』、đường trung tuyến (道)・【中線】『中線』、giao điểm 【交點】『交点』、giao tuyến 【交線】『交線』、giới hạn 【界限】『極限』、hằng số 【恒數】『定数』、hệ số 【係數】『系数』、hệ thức 【係式】『関係式』、hình bát diện đều 【形】・【八面】・(整った) 【正八面体』、hình học 【形學】『幾何学』、hoành độ 【横度】『x 座標』、hợp số 【合數】『合成数』、kính tuyến 【經線】『経線』、lục giác 【六角】『六角形』、mẫu thức 【\*母式】『(分数式の) 分母式』、mệnh đề 【命題】『命題』、ngoại tỉ 【外比】『外項』、ngũ giác 【五角】『五角形』、nguyên hàm 【\*原函】『不定積分、原始関数』、phân thức 【分式】『分数式』、phân tử 【分子】『分子』、phương sai 【方差】『分散』、phương trình chính tắc 【方程】・【正則】『パラメータ消去後の式』、phương trình trùng phương 【方程】・【重方】『複二次方程式』、quy hoạch tuyến tính 【規劃】・【線性】『線型計画法』、sai số tuyệt đối 【差數】・【絕對】『絶対誤差』、số học 【數學】『算術』、số nguyên tố 【數】・【元素】『素数』、số thập phân 【數】・【十分】『小数』、số trung vị 【數】・【\*中位】『中央値、メジアン』、tâm sai 【\*心差】『離心率』、tần suất 【頻率】『相対度数』、tham số 【參數】『媒介変数、パラメータ』、thiết diện 【切面】『断面』、thừa số 【乘數】『因数』、tiếp diện 【接面】『接平面』、tiếp điểm 【接點】『接点』、tiếp tuyến 【接線】『接線』、tiêu cự 【焦距】『焦点距離』、tiêu điểm 【焦點】『焦点』、tính đơn điệu 【性】・【單調】『一様性』、toa độ 【座度】『座標』、trọng tâm 【重心】『重心』、trọng tuyến 【\*重線】『(角錐の) 軸』、trung điểm 【中點】『中点』、trung đoạn 【中段】『錐体側面の三角形の中線』、trung tỉ 【\*中比】『内項』、trục tâm 【真心】『垂心』、tung độ 【縱度】『y 座標』、tứ diện 【四面】『四面体』、tứ giác 【四角】『四角形』、tử thức 【子式】『(分数式の) 分子式』、vector pháp tuyến 《仏語 vecteur》・【法線】『法線ベクトル』、ỹ tuyến 【緯線】『緯線』、xác suất 【確率】『確率』。\* Vietlex (2015) と Lại Cao Nguyễn (2006) に項目自体の掲載がなく、漢字表記は筆者によるもの。

<sup>24</sup> 効果量については小林 (2014) を参考にした。

## 参考文献

- Ban Chỉ đạo Tổng điều tra dân số và nhà ở Trung ương (2010) *Tổng điều tra dân số và nhà ở Việt Nam năm 2009: Kết quả toàn bộ = The 2009 Vietnam population and housing census: Completed Results*. Hà Nội: Nxb. Thống kê.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016a) *Toán 6* (tập một) (Tái bản lần thứ 14). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016b) *Toán 6* (tập hai) (Tái bản lần thứ 15). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016c) *Toán 7* (tập một) (Tái bản lần thứ 13). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016d) *Toán 7* (tập hai) (Tái bản lần thứ 13). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016e) *Toán 8* (tập một) (Tái bản lần thứ 12). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016f) *Toán 9* (tập một) (Tái bản lần thứ 11). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016g) *Đại số 10 - nâng cao* (Tái bản lần thứ 10). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016h) *Hình học 10 - nâng cao* (Tái bản lần thứ 10). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016i) *Đại số và Giải tích 11 - nâng cao* (Tái bản lần thứ 9). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016j) *Hình học 11 - nâng cao* (Tái bản lần thứ 9). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016k) *Giải tích 12 - nâng cao* (Tái bản lần thứ 8). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2016l) *Hình học 12 - nâng cao* (Tái bản lần thứ 8). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2017a) *Toán 8* (tập hai) (Tái bản lần thứ 13). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Bộ Giáo dục và Đào tạo (2017b) *Toán 9* (tập hai) (Tái bản lần thứ 12). Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- Cao Xuân Hạo (2017) “Hán Việt” và “Thuần Việt”. *Tiếng Việt - Văn Việt - Người Việt* (Tái bản lần 1), 62-70. TP HCM: Nxb. Trẻ.
- Hoàng Xuân Hãn (1942) *Danh từ khoa học - T.1: Toán, Lý, Hoá, Cơ, Thiên văn* (In lần thứ 1).
- 岩月純一 (2005) 「近代ベトナムにおける『漢字』の問題」村田雄二郎、C. ラマール (編) 『漢字圏の近代：ことばと国家』131-147、東京：東京大学出版会。
- 小林雄一郎 (2014) 「コーパス言語学研究における頻度差の検定と効果量」『外国語教育メディア学会 (LET) 関西支部メソドロジー研究部会報告論集』6、85-95。
- Lại Cao Nguyên (2006) *Từ điển từ Hán Việt*. Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội.
- Lê Đình Khấn (2002) *Từ vựng gốc Hán trong tiếng Việt*. TP HCM: Nxb. Đại học Quốc gia TP Hồ Chí Minh.
- Lê Khả Kế (1967) *Xây dựng thuật ngữ khoa học bằng tiếng Việt*. Viện Khoa học xã hội Việt-Nam (Biên tập), *Tiếng Việt và dạy đại học bằng tiếng Việt*, 110-136. Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội.
- 村上雄太郎・今井昭夫 (2013) 「現代ベトナム語における漢越語の研究 (4) ベトナム語の文法的特徴を持つ漢越要素」『東京外大東南アジア学』18、27-39。
- Nguyễn Đức Tồn (Chủ biên) (2016) *Thuật ngữ học tiếng Việt hiện đại*. Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội.



- Nguyễn Tài Cẩn (1979) *Nguồn gốc và quá trình hình thành cách đọc Hán Việt*. Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội.
- Nguyễn Văn Khang (2007) *Từ ngoại lai trong tiếng Việt*. Hà Nội: Nxb. Giáo dục.
- Nguyễn Văn Khang (2013) Nhìn lại chính sách ngôn ngữ của Đảng và Nhà nước Việt Nam về tiếng Việt và những vấn đề đặt ra đối với tiếng Việt hiện nay. *Ngôn ngữ và Đời sống*, 10, 1-9.
- Nguyễn Văn Khang (2014) Nhìn lại chính sách ngôn ngữ của Đảng và Nhà nước Việt Nam về tiếng Việt và những vấn đề đặt ra đối với tiếng Việt hiện nay (tiếp theo số 10.2013 và hết). *Ngôn ngữ và Đời sống*, 1, 2-8.
- 富田健次 (1979) 「ベトナムの民族俗字『字喃』の構造とその淵源」『東南アジア研究』17 (1)、85-98。
- 富田健次 (2000) 『ヴェトナム語の世界—ヴェトナム語基本文典』東京：大学書林。
- Tổng cục Thống kê (2017) *Niên giám thống kê 2016 = Statistical yearbook of Viet Nam 2016*. Hà Nội: Nxb. Thống kê.
- Trần Trí Dõi (2007) *Giáo trình lịch sử tiếng Việt (Sơ thảo)* (In lần thứ 2 có sửa chữa và bổ sung). Hà Nội: Nxb. Đại học Quốc gia Hà Nội.
- Trần Trí Dõi (2011) Khái niệm từ thuần Việt và từ ngoại lai từ góc nhìn của lịch sử tiếng Việt hiện nay. *Ngôn ngữ*, 11, 8-15.
- Văn Tân (Chủ biên) (1977) *Từ điển tiếng Việt* (In lần thứ 2 do Văn Tân, Nguyễn Văn Đạm chỉnh lý và bổ sung). Hà Nội: Nxb. Khoa học xã hội.
- Vietlex (2014) *Từ điển tiếng Việt thông dụng* (In lần thứ 2 có sửa chữa và bổ sung). Hà Nội: Nxb. Đà Nẵng.
- Vietlex (2015) *Từ điển tiếng Việt: 46.540 mục từ, 54.605 nghĩa từ* (In lần thứ 3). Hà Nội: Nxb. Đà Nẵng.
- Vũ Đức Nghiệu (2011) *Lược khảo lịch sử từ vựng tiếng Việt*. Hà Nội: Nxb. Giáo dục Việt Nam.
- 王力 (1949) 漢越語研究. 嶺南學報, 第9卷第1期, 1-96.

## 謝辞

本論は、筆者の修士論文の成果に基づくものである。研究を進めるにあたって、様々な先生からご指導ご鞭撻を賜った。特に、指導教員である岩月純一先生には、研究上の全面的な指南を賜った。また、ハノイ国家大学付属人文社会科学大学言語学部の Trần Thị Hồng Hạnh 先生には、本テーマに関連するベトナム国内の先行研究や研究者について、ご教示いただいた。ここに深謝の意を表する。なお、この研究は、公益財団法人松下幸之助記念財団の助成を受けている。